

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495300103	事業の開始年月日	平成22年4月1日
		指定年月日	平成22年7月1日
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	グループホーム高津		
所在地	(213-0034) 川崎市高津区上作延3-10-10		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和7年8月16日	評価結果 市町村受理日	令和8年2月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

閑静な住宅街の中で、大きな一軒家としてまわりに溶け込んでいます。まわりに、畑が広がり梅林が目の前に広がります。15年以上の運営で開設から勤務されている職員さんもおり、地域の方 ご家族様 ご利用者様との連携を深く築いた運営をしております。職員とボランティアさんがお手入れしている花壇は訪れる方々にお褒めのお言葉をいただいております。お散歩に行かれるご利用者様も「いつもきれいだね」とお話しして下さいます。食事は職員が材料から調理をする手料理を提供してご利用者様からご好評をいただいております。ホットプレートを出してお好み焼きやホットケーキを焼く食べ物のイベントにも力を入れております。ホームの中は職員が準備をし、ご利用者様と一緒に制作した月毎の貼り絵のカレンダーや折り紙、お花の飾りつけなど季節ごとにホーム全体で作成しております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年10月22日	評価機関 評価決定日	令和8年2月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は東急田園都市線「梶が谷」駅よりバスで6分、地域に古くから根付いている「しばられ松」バス停より徒歩5分の高台にあります。広いウッドデッキを備えた大きな戸建て風の建物は、静かな住宅街に溶け込んでいます。周辺には畑も残る穏やかな環境があります。運営法人は教育を中心にした介護、医療、子育て、特定技能登録支援などの事業を広く展開しています。

<優れている点>

認知症について熟知した管理者の指導により、職員がケアの根拠を深く理解し、納得して実践する質の高い認知症ケアを目指しています。利用者一人ひとりの特性を把握した徹底的な個別支援は、利用者のストレス軽減にもつながっています。また、本人や家族の、看取りの希望を尊重し、研修や実践を通じて職員の意識も「看取りへの恐れ」から「最期を支えるやりがい」へと変化してきています。こうした専門的なケアを支えるのは、勤務10年以上の職員が多く、コミュニケーションも円滑な風通しの良い職場環境です。医療や人材育成の面では法人の手厚い支援体制があり、高い職員定着率とともに、安定した支援を継続する基盤となっています。

<工夫点>

レクリエーションは、事業所主導の企画ではなく、利用者自身の声をもとに実施しています。利用者も自主的に参加しています。生活環境では、居室の壁に牛乳パック作った「三角表札」を設置しています。廊下から自室が判別しやすいよう工夫することで安心感を生み、自身の力で部屋へ戻る自立した生活を支えています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム高津
ユニット名	1

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	出来ている	法人の理念・ビジョンに基づき、事業所独自に「利用者への細やかな『目配り、気配り、心配り』を大切にしたい」という理念を掲げています。職員はこの理念を大切に、日々の支援の指針としています。また、月1回の拠点会議において、職員間で実践の振り返りを行うことで、理念の継続的な浸透を図っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ前は交流あったが、コロナ後はあいさつ程度になっている	開設から17年にわたり地域に馴染み、自治会へも加入しています。道路向かいの畑で収穫されたさつまいもや、建物脇の畑を耕している人から提供される野菜など、地域の恵を日々の食事に取り入れ、食卓を彩っています。これらの交流は、利用者が地元地域とのつながりを実感する貴重な機会となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今後取り組む予定 営業活動等企画中		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族様からの要望などはすぐにスタッフに共有し改善等している	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しています。会議では、参加者の自治会長から協力の申し出を、地域包括支援センターからは専門的な情報提供をそれぞれ受けています。また、家族からは「今のままで十分です」との評価が寄せられています。今後も地域に開かれた事業所として、情報発信や交流の機会となるよう会議を継続していきます。	地域とのつながりは、利用者の生活の広がりや、災害時における相互の協力関係を築くためにも有効です。今後は、運営推進会議での連携を基盤としつつ、自治会活動へのより積極的な参加が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	今後取り組む予定 営業活動等企画中	今回、初めて区が実施する「認知症月間」のイベントに応募し、グループホームの役割への理解促進や相談対応を目的とした展示を行っています。この取り組みを通じ、区民へ事業所の活動を周知する必要性を再確認したことから、今後も行政と連携を図り、関係を深めていきたいと考えています。また、今後はボランティア登録制度の活用についても検討していく予定です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	常に拘束の勉強会をし委員会を開き検討している	身体拘束等適正化委員会は全職員を委員として構成し、3ヶ月に一度開催しています。定期的な研修の実施を通じて、身体拘束に関する理解を深めています。経験の長い職員も認識を新たにし、利用者の尊厳を尊重したケアの実践に努めています。なお、万が一やむを得ない事情が生じた場合には、法令が定める要件に基づき、組織として極めて慎重な判断を行うこととしています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修で学び虐待防止に努めている	虐待防止委員会は全職員を委員として構成し、定期的に研修を実施しています。管理者は、職員が過度なストレスを抱えることのないよう配慮し、些細なことでも相談できる職場環境づくりに努めています。こうした管理者の姿勢により、職員が安心して支援に取り組める体制が構築されています。また、心身の負担軽減を図るため、定時退社を基本としています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	あまりできていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	出来ている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が見えた時には近況をお知らせしたり、必要物をお互いに伺っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	常にしている	月1回の拠点ミーティングでは、職員同士が自由に意見を出し合い、協議を行っています。また、年2回の個別面談において、管理者が職員一人ひとりの意見や要望を直接聞き取り、予算の範囲内で可能なものは速やかに実行に移しています。イベントの計画に際しては、職員が利用者からの声をヒントにして内容を立案しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	マイスター制度を活用促し	職員の定着率が高く、勤続10年以上の職員も多数在籍しています。職員間のコミュニケーションが良好で、意見を交わしやすい風通しのよい職場環境となっています。法人独自の「マイスター制度」により、意欲のある職員の育成を支援するとともに、習熟度に応じた給与体系を整えることで、職員の意欲向上につなげています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	出来ている。研修の実施も出来ている。	採用時には法人独自のマニュアル「スタッフブック」を配布し、2日間の研修を経て配属される体制を整えています。年間計画に基づき定期的に研修を実施しており、継続的な受講を通じて知識の定着と意識の向上を図っています。また、キャリアアップを目指す職員に対しては、法人の支援制度によるバックアップがあります。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	今後取り組む予定 営業活動等企画中		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	出来ている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族はホームに対してすべてをまかせてくれるのだから1つ1つ解決し信頼関係を築く		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期に必要なとしている支援をすべて見極めるのは難しいので、日々観察しながら支援を増やしてく		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様のできることはやっていたり片付け等一緒におこなっている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様と雑談できる間柄にて心配事等聞いてあんしんしていただくこともあり、共に支えあっている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	出来ている	利用者が安心して過ごせる環境を整え、「心の拠り所」となるよう、入居時には使い慣れた家具や身回り品の持ち込みを家族に依頼しています。箸や茶碗などの食器類も利用者ごとに個別のものを使用しています。また、家族の面会は制限を設けず、いつでも可能な体制としています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立しないよう日々声掛け雑談、笑顔が出るように支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	あまりできていない出来ていない		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	言葉で説明できない方の思い等は本人の行動をよく観察し何をしたいかわかる時もある	お茶の時間の飲み物はコーヒーや紅茶など、その日の気分に合わせて自分で選ぶことができます。「個別に何をしたいか」を丁寧に聞き取り、一人ひとりが特別感を持てるような関わりを大切にしています。例えば、持ち物がなくなると不安を訴える利用者に対し、職員が相談の上、ギフト包装したペンとノートを特別に贈るなど、個別の心に寄り添った対応を行い、安心につなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	昔話をしてその方がどのような生活をしてきたか雑談のなかで聞き出し笑顔を見られるよう努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の要望を聞き毎日ケアをしているスタッフとの話し合いによって日々変化の様子で介護計画を反映させる	月1回の拠点ミーティングにおいて、全職員で個々のケアについて検討を行っています。短期目標の達成状況を把握した上で、利用者や家族の意向を汲み取り、個別記録や医療関係者の意見も総合的に参照してケアプランを作成しています。計画期間は短期を6ヶ月、長期を1年としています。状態に変化が生じた際はその都度見直しを行うなど、柔軟な対応に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	出来ている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	出来ている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	あまりで来ていない		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	支援している	入居時に利用者、家族の同意を得た上で、全員が法人の協力医療機関の医師をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受診しています。緊急時に備えて24時間オンコール体制が整っており、夜間や休日を問わず、情報を共有している医療関係者と連絡が取れる体制を構築しており、利用者、家族の安心につながっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	その時の様子を文章やしゃしんで記録し看護師がわかるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師の判断で終末期を告げられたら、家族、スタッフとともに支援に取り組む	入居契約時に看取りの指針に基づき、終末期における事業所の方針を説明しています。医師が終末期と判断した際は、家族へ意向を確認し、看取りプランに沿った支援を実施しています。職員は研修や管理者からの指導、実践を通じて看取りの意識を深めており、看取りを恐れずに臨み、利用者の最期を支える事に使命を自覚して取り組んでいます。家族からの感謝の言葉が寄せられています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	出来ている		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	BCPを活用できるようにしている	自然災害のBCP(業務継続計画)を活用した机上訓練に加え、年2回、昼間・夜間を想定した避難訓練を実施しています。訓練に際しては、利用者が不安を感じないように、さりげなく普段に近い雰囲気で行うよう配慮しています。備蓄品や防災用品はリスト化し、屋外倉庫とベランダに3日分を保管しています。法人の管理により定期的に届く非常食は、入れ替え時に実食し、味や食べやすさを事前に確認しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	認知症になっても人格のあるお年寄りという認識のもとプライバシーを尊重した介護をする	採用時には2日間の対面研修を行い、接遇やプライバシー保護について学んだ後に習熟度テストを実施しています。認知症介護に精通した管理者の指導のもと、職員は傾聴や寄り添う姿勢を深め、介護にやりがいや楽しさを見出せるようになってきています。不適切な言葉に対してはその場で指導を行うほか、重要書類施錠管理を徹底し、プライバシーの保護に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	だいたい出来ている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	時間がある限りその人ができることを支援、一緒に楽しむようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴時の着替え、汚れて交換の際はサイズ色合い等あっている衣類を提供している（自分で選べない方）		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	以前はお正月のおせち作り等やっていたがコロナで食器拭き程度となっている できる人には一緒にやってもらっている	ボランティアによる菜園で収穫したきゅうりやトマト、なすなどの新鮮な野菜が食卓を賑わせています。通常は外部委託の献立ですが、日曜日はホワイトシチューやロールパン、ヨーグルトといった特別食を提供し、変化を楽しめるよう工夫しています。利用者の要望から「焼きサンマ」を味わう季節企画が実現したほか、新たな企画も検討しています。また、テーブル拭きや食器拭きなどの役割を担うことが、利用者の生活の張り合いにつながっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	無理せずなるべく召し上がっていただくように食事を工夫して提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアをされるのが嫌いな方もいるのでここにあった方法をその時の状態を見ておこなっている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個人の排泄パターン、個人にあった介助は出来ている	トイレでの排泄を基本とし、自立している人は自由に使用できるよう環境を整えています。介助が必要な方に対しては、個々の排泄パターンやしぐさ、動作の変化を汲み取ってトイレへ誘導するほか、立位が不安定な人には二人介助による安全性を確保しています。日中はリハビリパンツを活用してトイレ誘導を行い、夜間は状況に応じておむつを使用するなど、生活リズムに合わせた支援を行っています。利用者の残存能力を見極め、必要な時のみ介助を行うことで、自立を促し「気持ちよい排泄」を支えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	クリニックと連携しておこなっている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	その時の利用者様の状態に合わせて行っている	入浴は週に2回以上を基本とし、できる限り本人の希望に沿うようにしています。1対1の空間でゆっくり対話を重ね、時には歌うなど、心からくつろげる時間となるよう工夫しています。また、希望に応じて入浴時間を延長したり、好みの入浴剤を使用したりといった個別支援を行っています。体調や身体状況により入浴が困難な場合でも、清拭により常に身体の清潔を保てるよう配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	寝る前は不穏にならないように声掛けなど工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	介護度が上がりなかなかぜんいんでは難しい		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	以前は散歩も頻繁に行っていたが、介護度が上がり戸外は週一。外食などご家族の支援を呼びかけている	職員が3人体制となる毎週日曜日には、車いすの利用者も含めて緑豊かな近隣の散歩に出かけ、花や野菜などの季節の移り変わりを楽しむ機会を設けています。また、広いウッドデッキでの日光浴や、洗濯物干しといった日常的な活動を通じて、外気に触れる機会を大切にしています。家族が付き添う形での外出や外食についても、家族へ協力を仰ぎながら支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金の取り扱いをしてないのでしていません		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人から直接電話はかけていません 要望があればご家族にかけてきてもらっていないでいます	/	
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	している	築17年を迎える建物ですが、清掃を徹底し、清潔な空間を維持しています。室内には利用者と職員が協力して制作した折り紙や貼り絵、季節の壁飾りを施し、生活の中で季節の移り変わりを感じられるよう工夫しています。日中の過ごし方は自由であり、フロアで折り紙や歌を楽しむ人、洗濯物畳みなどの手伝いをする人など、それぞれが思い思いに過ごしています。数人が集まり、しりとりを行うなど、和やかな交流も自然に生まれています。こうした個々の過ごし方を尊重する環境が、利用者の安心感と穏やかな日常生活の継続を支えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ADL上難しいが工夫している	/	
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	写真や本等飾っている	エアコンやクローゼット、照明などの基本設備のほか、防災カーテンを事業所が設置し、安全で機能的な環境を整えています。各居室の入口には牛乳パックで作った立体的な表札を掲げ、自室を判別しやすいよう工夫しています。室内には使い慣れた家具や思い出のある写真を配置し、在宅時の暮らしに近い落ち着いた雰囲気になっています。居室担当者を中心に整理整頓や衣替え、不足品の確認を行うことで、自分らしく、不自由のない日常生活を継続できるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	工夫している	/	

事業所名	グループホーム高津
ユニット名	2

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	まあまあ出来ている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ以降、実施や参加が難しい 介護度が上がった利用者様多く見守り対応で思うように職員が協力できていない		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	昔と比べ交流が減った		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議でのご家族の意見や苦情があった場合はすぐに改善している		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	施設長が連携を取っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	月一回ミーティングで話し合う		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	決められた月に話し合いをしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設長がしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	施設長がしている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	会議で出た意見は活用している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングなどで意見交換で来ている		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	している		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	ブロック会議などで情報交換している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	情報提供や本人とのコミュニケーション等で情報をえる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	信頼関係を築けるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	観察しながら必要な支援を見極める		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員と入居者の関係ではなく人生の先輩として経緯を持って接する		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コミュニケーションをとりながらよい関係を築く		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	特に制限せず面会にはぜひ来てほしい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	時々席替えをしたりし孤立しないようしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	出来ていない こちらから連絡は取っていない		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	観察しながら検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族等とコミュニケーション取りながら行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	まあまあ出来ている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録入力し職員間で共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	出来ている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	あまりで来ていない		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	入浴時のボディチェックし看護とも連携している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したらサマリー等をすぐに送っている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	往診医とその他部署と綿密に情報共有を行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	出来ている		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	BCPを活用している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩として言葉遣いや態度に気を付けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	だいたい出来ている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の希望に出来るだけ沿うように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一緒に選べる方はお好みを取り入れ、季節感を間違わないようにも配慮している		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食器拭きやトレイ拭きは職員見守りで手伝っていただいている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケア、義歯洗浄おこなっている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の自立度に合わせ支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動は出来ていない		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	個々の自立度に合わせ支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の精神状態の安定を保つ等ストレスが少なくなるようケアしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	支援している		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	今は活動なし		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金の取り扱いがないので行っていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人からかけることはないが、必要に応じて家族からかけてもらっている		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設内で季節などがわかるように飾りつけや、工作を一緒に制作している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	工夫している		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の好きなように、また家族の意向も取り入れる 部屋が広く使えるように整頓する		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々のADLに合わせて工夫している		

2025年度

事業所名 ヒューマンライフケアGH高津
作成日： 2026 年 2 月 11 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	町内とのコミュニケーションがなかなかとれない	子どもたちを守る緊急避難場所	怖い思いをしたらいつでもかけこんでいいよと看板を出す	1 2 ヶ月
2	3	地域に根付いたホームしていくには	認知症の相談窓口	家庭で悩まず、専門家に相談できるように開けた施設にしていく	1 2 ヶ月